

## 災害 (2) 原発事故とその影響の研究

### 『原子カムラ』社会の、表層の論理と深層の論理

瀋陽師範学院・Miyauchi Institute of Social-ty・宮内紀靖

#### I 目的

原子力利用に、市民が自主的に市民の意志を表明できるようにする為に、『原子カムラ』がどんな論理の下に、構成員がどう行動しているかの本質を解明するのを、目的とする。

そして究極的には『原子力社会学』という連字符社会学を、現存する恣意的な且つ安易な他分野の非専門家による『原子力社会論(学)』とは異なる、一般社会学の原理・概念に正確に基づくものとして、科学的知見も踏まえて、創設することを目的とする。

#### II 方法

先ず『原子カムラ』の構成員・参加業界・外界(非参加世界)・その関係・行為・行動・制度・規範などを考察する。その為に、①電力業界の内部呼称としての「原子力村Ⅰ」・②経産省文科省と電力業界の作る「原子力村Ⅱ」・③官・民・学界によって作られる「原子力村Ⅲ」・④官・民・学界に政界を含んだ「原子力村Ⅳ」等の実態を、考察する。

その後に『原子カムラ』社会が、一般社会学・農村社会学によって解明された、各種のムラ社会概念が、『原子カムラ』社会に、殆んど同様に存在することを証明する。

その例として、a 掟(タブー)の存在・b ムラオサ支配・c 上下関係重視・d 親分子分関係・e 秘密(陰口隠語)・f 非公開・g 排他的(他者排除)・h 自己中心・i 閉鎖的仲間意識・j 無批判・k 事勿主義・l 批判者を疎外・m 秘密目的の完遂・などの差別・疎外の特徴を解明する。

その後に『原子力安全神話』①原子力は夢のエネルギー②無限のエネルギー③石油危機克服エネルギー④原子力平和利用⑤原子力安全神話⑥原子力は安価⑦地域振興寄与⑧原子力はクリーン⑨核燃料リサイクル神話[高木仁三郎が指摘]を考察する。[表層と深層の論理]

#### III 考察

II①は、東電内部で語られていた隠語で、「原子力村」「総務・企画村」「営業村」など。

II②は、官界を取込んで、原子力推進に邁進する「原子力村」。関係は天下り天入り。

II③は、前者に村民供給機関東大工学部原子力学科[原子力学会]を加えた「原子力村」。

II④は、官と民と学に政界を加えた、現時点での日本の「原子力村」の実態。

その後に封建的(前近代的)な、『ムラ』の関係・論理をII a~II m 迄考察する。

#### IV 結語

原子力基本原則の、平和・自主・民主・公開の四原則(一般的には三原則として、自主・民主・公開の三原則が言われる)が、実態は核武装・他者依存・非民主(封建的)・非公開(秘密保持)の原則が、全面的に秘密裏に取られている。[原子力三原則の完全無視]

原子力利用の本質は、政治が『大国化』『戦争のできる普通の国化』する為に、核武装の為にプルトニウムを保有するという点にある[石原慎太郎の発言など]。[深層の論理]

#### V 文献

長谷川公一;2011;『脱原子力社会へ』;岩波書店。

中曽根康弘;2004;『自省録』;新潮社。

志村嘉一郎;2011;『東電帝国その失敗の本質』;文藝春秋。

鈴木栄太郎;1940;『日本農村社会学原理』;時潮社。

武谷三男;1968;武谷三男著作集2『原子力と科学者』;勁草書房。

田中知;2010;「原子力はどこまで貢献できるか」『クリーン&グリーンエネルギー革命;ダイヤモンド社

吉岡斉;2011;『新版原子力の社会史』;朝日新聞出版。